想い出

古川緑波

青空文庫

よき日、よき頃のはなしである。

フランスの汽船会社M・Mの船が、神戸の港へ入ると、その船へ昼食を食べに行くことが出来たものだった。

はじめての時は、フェリックス・ルセルという船だった。

その碇泊中の船の食堂で、食べたフランス料理の味を、僕は永遠に記念したい。

落着いた食堂で、純白のテーブル掛のかかったテーブルに着くと、黒ん坊のウェイターが、サーヴィスして呉れる。

パンを、皿に載せないで、直かに、テーブルクロースの上へ置かれたのに、いささか面喰いつつ——パンの粉を、黒ん坊のウェイターが、時々刷毛で掃除して呉れた。——先ず出て来た、フォアグラの味に、もう、うっとりとしてしまった。

本場のフランス料理ってものを、M・M汽船の食堂で覚えたことは、或いは僕にとって、生涯の不幸だったかも知れない。

だって、フェリックス・ルセルをはじめとして、それから僕が、神戸へ行く度に通った船は、クイン・ドウメル、アラミス等々と数多いが、皆それは、戦争のはじまり頃のことなのだ。

やがて、フランスの船へ食べに行くことなど、まかり成らない御時世にもなったし第一もう、M・Mの船なんか、日本へ来なくなってしまったのだもの。

そして、わが国の食糧事情という奴が、もうセッパ詰って来て、洋食の如きも、殆んど姿を消すに至ったのだもの。

うまい御馳走を、ちょいと味わわせて貰った、その後が、めちゃくちゃな食いものの時代になったのだから、たまらない。

何を食ったって、船の食堂を思い出す。たまに、洋食のようなものが出たって、ああ、船では——と思っちまう。

いっそ、罪な目に遭った。そんな気がした。なまじ、あんな美味いものを知らなきゃあ、こんな苦労はあるまいものをと、戦時中、幾たび嘆いたか分らない。

又、戦後の今日、もはや何でも出揃い申し候の今日に至っても、M・Mの船で食ったフランス料理の味は、時々思い出す。

今でも、ラングース・テルミドオー（とでも発音するのか）という、伊勢海老のチーズ焼。それが出て来ると、ハッと思い出すのだ、船の食堂を。

船の食堂では、昼食には、スープは出なかった。いきなりが、オードヴルとしてのフォアグラ（ああその味！）（氷でこしらえた白鳥の背中などに盛られてありし——）が出て、その次が、伊勢海老のチーズ焼。

ホカホカ熱いのを、フーフー言いながら食べる。甘いシャムパンのような酒が出る。ああこう書いていても、僕の心は躍るのだ。

倦きも倦かれもせぬ仲を、無理に割かれた、そのかみの恋人を思うように。

伊勢海老でない時は、そうだ、平目のノルマンディー風、なんてのもあったっけ。おお、そして、車海老のニューバーグ！

いずれにしても、チーズの、じゅーッと焦げたのが、舌に熱かった。

チーズといえば、もう食事の終る頃に、いろいろなチーズの（やっぱり、ここではフロマージュと発音しないと感じが出ない）並んだ大きな皿が出る。

カビの生えた、それも青々と、そして、やたらに穴のあいているのなどを、これがオツなんだと言われて、口に入れてはみたものの、あんまりオツすぎて、プフッと言っちまって、あわてて、甘口のシャムパンを飲んだことなども思い出す。

フランス語と来ては、まるで分らない。それが食い気のために一心不乱、何とかして通じさせようと思って、覚えた。

氷は、グラスっていうんだっけ。

ええと、それから、パンは何だっけな？

英語では、ブレッドだが、フランス語では？　と、あわてたが、何のことフランス語でも、パンは、パンだった。

魚の皿が引込んで、白い葡萄酒が、赤に変ると、肉が出る。

テクニカラー映画でも、あの、桃色とも、赤とも言えない、ロースト・ビーフの色は中々に出まいと思われる。

おおそして、その肉に従属するところの、もろもろの野菜たちよ！

貪欲倦くところなき僕は、幾たびか又その肉のお代りをしたものである。

ひょいと後を向いて、又お代りだという表情をすると、黒ん坊のウェイターは、笑いもせずに、たちどころに、大きな皿を僕の傍へ持って来るのだった。

食事が終って、葉巻になる。

フィンガーボールは、レースの敷きものに乗っていて、水には、レモンが浮いていた。これじゃあ、飲みものと間違えても、しようがない、という姿だった。

甘いシャムパンと、赤白の葡萄酒の、ほろ酔いである。

甘い酒は、かおが酔いますね。

頬っぺたが、くすぐったくて、眼がボーッとなる。そこへ葉巻を吸うでしょう？

おなかは張っているし——いい心持。

さ、そのフランス船での食事も、馴れて来ると、二度目三度目、さのみ美味いとも思わなくなったんだが、そこがそれ、前にもお話したように、それから、段々わが国の食べものが無くなって来て、世にも悲しいものばっかり食膳に並ぶようになったんだから、さてそれからというものは、夢にうつつに、フランス船を思い出したというわけでございます。

これは、わたくしの一生の不幸になったかも分りません。

かなしくも、なつかしき思い出でございます。

青空文庫情報

底本：「ロッパの悲食記」ちくま文庫、筑摩書房
1995（平成7）年8月24日第1刷発行
2007（平成19）年9月5日第3刷発行
入力：門田裕志
校正：仙酔ゑびす
2011年11月29日作成
青空文庫作成ファイル：
このファイルは、インターネットの図書館、青空文庫（http://www.aozora.gr.jp/）で作られました。入力、校正、制作にあたったのは、ボランティアの皆さんです。

想い出

古川緑波

2026年10月1日　第二版

奥　付

発行　　青空文庫

URL　　http://www.aozora.gr.jp/
E-Mail　　info@aozora.gr.jp

作成　　青空ヘルパー　　赤鬼@BFSU
URL　　https://aohelp.club/
BiliBili　　https://space.bilibili.com/10060483

Special Thanks
　青空文庫　威沙

青空文庫を全デバイスで楽しめる青空ヘルパー http://aohelp.club/
※この本の作成には文庫本作成ツール『威沙』を使用しています。
http://tokimi.sylphid.jp/